

# 一人にひかり みんなのかがやき

## こんな悩みに思い当たる先生方は、いませんか？

- ・「子どものことを誰かに相談したいけど、話せる人がいない。」
- ・「一人をたてれば、一人がたたず。そんなことの繰り返しで、多様な子どもに対応できない。」
- ・「子どもが生き生きと活動しているようにみえない。もっと、充実した学校生活にできないかな。」
- ・「個別の指導計画ってどうすればいいの？」……

## ●「みんなで支援 みんなが笑顔」のために

自律教育シリーズで示されている「みんなで支援 みんなが笑顔」「チーム支援」を合い言葉に、県下の小中学校では支援体制が着実に構築されつつあります。その一方で、学校現場では「児童生徒と対面するのは、やはり担任であるそれぞれの先生方だ」ということを再認識している状況があります。児童生徒との対面とは、「学級経営」であり、「授業」そのものであります。校内支援体制の構築と共に、「学級経営」や「授業」の質を高めることが当然のように求められるのです。

ところが、各校での特別支援教育の一翼を担うべき特別支援学級担任の先生方から、悩みや不安の声がたくさん聞かれてくるのです。上述の  に書かれた悩みは、ここ数年新たに特別支援学級の担任となった先生方が語る言葉や思いです。

そこで特別支援教育シリーズ第1集は、特別支援学級の先生方から聞かれる「悩み」に少しでも応えるとともに、各校での特別支援教育への取り組みの参考にしていただければと思います。

## ●特別支援学級からの発信

特別支援教育シリーズ第1集では、現在特別支援学級（学校）担任の先生方の実践や悩みを飾ることなく執筆していただきました。うまくいった事例だけでなく、悩み迷われての実践が数多く含まれています。それぞれの事例に盛り込まれている先生方の苦労、悩み、子どもや保護者に寄り添った気持ちなども併せて読み取っていただければと思います。「こんな場合には、どうすればいいの？」といったハウツーにも対応できるように編集しました。

しかしどの事例を参考にして活用するにしても、それぞれの学級・学校の実態に応じてア

レンジする必要が出てくることと思います。どの学校・学級でも順風満帆に進んでいるわけではなく、日々、学習・実践・試行錯誤の毎日を送っているのです。「悩んでいるのは、自分一人ではない。第1集を読んで明日への意欲がわいてきた」そんなふうに活用していただければ幸いです。

## 特別支援教育シリーズ第1集

### I 特別支援学級ははじめの一步

「個別の指導計画」「生活単元学習」「環境構築（教材研究、教室環境、時間割）」等を中心に、初めて特別支援学級を担任された先生方や担任されて間もない先生方が悩まれている事柄に応える形で事例を作成しています。多くの学校や特別支援学級で参考になるとと思います。

### II チームで支援する特別支援学級

「チーム支援」をキーワードに、「原学級」「家庭」「校内」「医療・福祉等外部機関」などと特別支援学級との連携の事例を載せました。また、連携の方法だけでなく、連携して得た情報をいかに活用したかをできるだけ具体的に記述するように編集しました。すぐに学級経営や授業に参考となる支援もあります。

※自律教育シリーズ第1～3集の関連ページを事例の中に明記してあります

※近年長野県教育委員会より発刊され、各校に配本されている冊子も参考にしてください。

○自律教育シリーズ 第1集～第3集「みんなで支援 みんなが笑顔」 H16～H18

○特殊教育教育課程学習指導手引書 「指導上配慮を要する子どもの教育課程編成のために」  
基本方針編 一人一人の理解編 指導の実際編（3分冊） H14

## ●一人にひかり みんなのかがやき

掲載されているそれぞれの実践事例にあたっていただくと、一人ひとりの子どもの実態を把握して理解し、自立や社会参加に向けてのニーズに応じた支援を行っていることに気づかれることでしょう。

特別支援教育は、特別な場で特別な教育を行うのではないことは広く認知されてきました。特別な教育的支援を要する子どもたちを対象として学校全体で支援にあたるためには、特別支援学級におけるアプローチのしかたや教育的支援の方法が生きてくるものと思います。

学級の一人の子どもに光りをあて、その子に応じた支援をすることで、やがては学級の子どもたちが輝き、学校全体がきらめくことを期待しています。